



# ようこそ 文学館へ

～2021年、ふるさと文学館に来館された作家たち～



今年ふるさと文学館に来館された作家・アーティストたちのうち8人を色紙や写真で振り返ります。

期間：2021年12月24日（金）～2022年3月23日（水）

## ◆色紙と写真◆

項番	作家・アーティスト名	経歴	来館日
1	本宮 ことは	作家。中学校、高校時代を福井で過ごす。『幻獣降臨譚』（講談社）でデビュー。少女向けライトノベルを中心に執筆。代表作に「聖鐘の乙女」シリーズ（一迅社）、「狼と勾玉」シリーズ（集英社）などがある。	11月7日（日） 文学フェスタ創作講座のため
2	紅玉いづき	作家。石川県出身。『ミズクと夜の王』で電撃小説大賞を受賞し2007年にデビュー。少女向けライトノベルや児童文学、ゲームシナリオなどを幅広く執筆する。	11月7日（日） 文学フェスタ創作講座 聴講のため
3	津田寛治	俳優。福井市出身。北野武監督の映画「ソナチネ」（1993）でデビュー後、「トウキョウソナタ」「シン・ゴジラ」「花燃ゆ」など数々の映画・ドラマに出演。2021年度のNHK大河ドラマ「青天を衝け」では天狗党の首領、武田耕雲斎を演じた。	11月7日（日） 文学フェスタ朗読会のため
4	裕夢	作家。福井県出身。2019年、小学館ライトノベル大賞にて優秀賞を受賞し作家デビュー。代表作は福井が舞台の『千歳くんはラムネ瓶のなか』（小学館）シリーズ。	11月17日（水） 図書館見学のため
5	raemz	イラストレーター。アメリカ出身。数々のライトノベルやゲームなどのビジュアルを手掛ける。	11月17日（水） 図書館見学のため
6	石川九楊	書家。越前市出身。中学校のとき、書の芸術性に眼ざめる。京都大学に進学する際「九楊」の号をうけ、在学中から本格的に書制作を開始、現在も独自の書表現を追求し続けている。漢字圏の歴史や文化を研究し、書の歴史をまとめた評論多数。	11月30日（火） 出前授業のため
7	赤神諒	作家。京都府出身。上智大学法学部で教鞭をとるかたわら、2017年に「丹生島城の聖将」で小説現代長編新人賞の最終候補となり、同年『大友二階崩れ』で日経小説大賞を受賞、小説家として活動を始める。	12月10日（金） 出前授業のため
8	石川直樹	写真家。東京都出身。東京藝術大学大学院博士課程修了。人類学や民俗学に造詣が深く、世界中の都市や極地を撮影した写真集や、旅の随筆集を数多く発表している。2008年『最後の冒険家』（集英社）で開高健ノンフィクション賞受賞。	12月11日（土） 講演会のため

## ◆著作◆

項番	作家・アーティスト名	種別	資料名	発行年	発行者
1	本宮ことは	書籍	『魂織姫』	2015	講談社
2	紅玉いづき	書籍	『現代詩人探偵』	2016	東京創元社
3	吉村昭	書籍	『天狗争乱』	1994	朝日新聞社
4	裕夢 (イラスト:raemz)	書籍	『千歳くんはラムネ瓶のなか』6巻	2021	小学館
5	石川九楊	書籍	『思想をよむ、人をよむ、時代をよむ。』	2021	ミネルヴァ書房
6	赤神諒	書籍	『酔象の流儀』	2018	講談社
7	石川直樹	書籍	『地上に星座をつくる』	2020	新潮社